

令和5年度 自己評価書・学校関係評価書

令和6年3月6日
真庭市立美川こども園
園長 横田 朝子 印

1 美川こども園の教育保育目標

○教育・保育目標

『一人一人の「じょうぶな頭」と「かしこい体」を育み「まあるい笑顔」を輝かそう！』

○めざす子ども像

「どんどん考える子ども」（じょうぶな頭：思考力・表現力・判断力・想像力・粘り強さ）

「いきいき楽しむ子ども」（かしこい体：元気な体・豊かな心・生活の自立・主体性・意欲）

「ぽかぽか温かい暖かい子ども」（まあるい心：思いやり・慈しみ・協同・協力・社会性）

2 本年度の重点目標（課題）

本年度の研究テーマ（重点的に取り組むこと）

「豊かな話し言葉を育む環境づくり

～話したい！聞きたい！伝えたい！気持ちを育む～

○子どもと職員、子ども同士、職員と保護者の信頼関係構築に努め、安心して話したくなる、聞きたくなる気持ちを育む基盤づくりをする。

1 心が動かされ、伝えたい、関わりたくなる環境づくりのために

子どもたちが「なんで？」「どうなってるの？」と驚いたり、「すごい！」「おもしろい！」と感動したり、「こうしたらどうなるかな？」と考えたりと心動かしながら関わり合えることができる環境を構成しながら、自ら選んで遊ぶ時間の活動の充実を図る。

2 話したいと思ったときに、話せる職員であるために

子どもが「話したい」と思った機会を大切に受け止め、最後まで丁寧に聴くことで、聴いてもらった満足感や心地よさを十分に感じられるようにする。

3 感性と表現力を豊かにする発達に応じた体験と言葉の獲得のために

生活の中で、心を動かす出来事を経験できるように、季節や行事を取り入れた体験や絵本を聞かせてもらう機会を日常的にもち、感性を高める実践を重ねる。また、絵本環境を充実させ、家庭でも楽しめるように、月刊絵本の配布や絵本貸しを定期的実施する。

4 保護者支援のために

日々一緒に過ごす中での子どものつぶやきを保護者へ伝えながら、子どもの発する言葉のかわいらしさや面白さを伝え、保護者自身も子どもの言葉に耳を傾けたいと思えるように働きかける。

3 本年度 美川こども園 学校評価（自己・学校関係者）評価

評価指標	考 察	園総合評価 (自己評価)	評価委員評価 (学校評議員評価)
教育課程・ 指導計画	園の教育保育理念、目標を理解して指導計画を立て、記録や振り返りをしながら保育の改善に努めた。	3	4
行 事	年齢ごとの発達段階を考慮した行事の持ち方を工夫した。それぞれの年齢のねらいを明確にしなが ら実施し、園児にとってどんな体験ができるのか を考え、育ちをポイントにして見直しを行っている。	3	4
組織・運営	経営計画をベースに職員一人一人を尊重し、それ ぞれの得意なことが活かせるように、組織作り・ 園運営をしている。	3	3
学級経営	一人一人の園児に寄り添い、内面理解をすること を保育の基本としながら温かい人間関係を構築 し、自己発揮できる場を作っている。	3	3
特別支援教育	必要に応じて職員を配置して、一人一人の困り感 を理解しながら援助や環境作りをしている。丁寧 に保護者との話し合いをもち、研修、関係機関と の連携も図りながら進めている。	3	4
安全管理・ 保健指導	今年度、園庭フェンスが新しくなり、避難用の出 入口が1カ所増えた。また、園門周辺を写す監視 カメラも設置している。園内の安全点検を定期的 に行い、事故防止の配慮や職員研修を行い安全に 過ごせるようにしてきた。避難訓練、交通安全指 導も毎月行っている。また、生活習慣、感染症等 対策としての情報提供や家族時間を大切にす取 組を推奨してきた。	3	4
研修 (資質向上)	園外研修への参加やテーマを設けた園内研修を計 画的にしている。臨時の園内研修も必要に応じて 行ってきた。(12月現在延べ 園外61回、園内11回)	3	3
情報提供・ 保護者・ 地域との連携	保護者と日常的な情報交換に加え、必要に応じて 個別面談を行い連携を図っている。日々の見守り や行事への参加、教材の準備などにも協力をいた だいたり、住民会等の協力で、花の寄せ植え作り の交流もできた。	3	3

小学校との接 続・連携	園と小学校職員との話し合いの場をもち、接続に向けて情報共有している。また、園児と1、5年生との交流の場も2月に実施。	3	3
子育て支援	お便りや掲示による生活習慣や病気の対応等の情報提供や、保護者も一人一人違うことを意識して、必要な時に安心して相談のできる関係づくりに努めている。家族で過ごす時間の良さを意識していただけるよう絵本の貸し出しや「ほっと」タイムカードの活用(年5回4、5歳児対象)をしている。	3	3
食育の推進 (給食)	野菜栽培を通して、育てることや食すことの喜びと美味しく食べられることへの感謝の気持ちがもてるようにしている。また、栄養士が話をする機会をもったり、毎日の給食を写真掲示し、保護者と子どもが食材や献立を話題にしたり、食事に関心が向くようにしてきている。	4	4
食事の提供 (調理)	衛生管理、体調管理をして、安全に調理できるようにし、調理担当と園児のコミュニケーションを図ることでより給食を楽しみに、感謝して美味しく食べることができるようにしている。	4	4
環境美化	美化・整備・清掃を心掛け、季節を感じ気持ちよく、のびのびと活動に取り組める環境づくりを心掛けている。	3	4

4 その他必要な評価

評価指標	考 察	園総合評価 (自己評価)	評価委員評価 (学校評議員評価)
信頼される職員	園職員として、正しい言葉遣いや態度に気をつけるよう意識し、明るく挨拶と笑顔の対応を心がけている。	4	4
健康な心と体	自身の感染予防に努め、体調に留意し、健康な状態を保つようにしている。また、各自が職員間の良好な人間関係作りに努め、信頼関係を軸に協力することができている。	4	4

5 本年度の重点課題及び総合的な評価結果の考察等（学校関係者評価委員総合所見含）

- 職員は園児をありのままに受け入れ、幼児理解を基盤にした、園児一人一人の良さを活かせるクラス運営ができています。園児と職員との信頼関係も深まり、職員も園児の話に耳を傾けることを意識して行っている。生活の中で、思ったことや考えたことなどを伝えようとする姿が多く見られている。4、5歳児では遊びや生活の振り返りをする時間が日常的にあり、自分が話すだけでなく友達の話の聞いたり話し合ったりする機会もあり、5歳児では話し合っ物事を決める経験も重ねている。
- 低年齢児では発語が増え、話したい気持ちがどんどん出てくる時期に思い切り泣いたり覚えた言葉を使ったりする姿を受け入れ、しっかり自己発揮できるように関わり、職員がその言葉に興味をもって耳を傾け、じっくり聞くこと、温かく話しかけることで、自分から声を出してコミュニケーションを取ろうとする姿が多くなってきている。友達への興味も増え、コミュニケーションを言葉でとろうとする姿へつながってきている。
- 園児が興味をもち、してみたくなる、挑戦したくなる環境を構成するため、自ら選んだ遊びについて担任を中心に検討会議を設けて環境構成をしてきた。手作りおもちゃや手先を使う遊び、体を動かす遊び、ルールのある遊び等発達段階を考慮して工夫してきた。短い期間での細やかな見直しには課題が残る。
- 終礼等で職員間で共有して、学年を越えて子どもの良さや成長を共有できている。情報共有ができることで、担任以外の職員も、登降園時に保護者へ具体的なエピソードなどを交えて成長を伝えることができているように思う。
- 今年度は、絵本読み聞かせボランティアさんによる読み聞かせ会を再開したり、外部講師による自然体験や地域の方との寄せ植え作りなど外部の方とのふれあいをすこしずつ実施することができ、心が動く感動体験をすることができた。これからも地域の方を含め、園外の方の協力をいただきながら様々な人と関わる事のできる直接体験を増やしていきたい。
- 地域との交流がコロナのために実施できていなかったが、寄せ植え作り、焼き芋等すこしずつ復活したように思う。今後も地域との交流が増えることを期待したい。
- 運動会、発表会で園児の姿を見ると、先生との信頼関係がしっかりできていて、堂々と発表できていた。ここまで指導されてこられた先生方本当にお疲れ様でした。
- 先生方一人一人の子ども達への言葉かけも、しっかりと耳を傾けて対応されている姿も素晴らしい。
- うさぎ当番も、暑い日も寒い日もきちんときれいにしている姿が素晴らしい。
- 一人一人の園児に対して、よく話を聞いたり、向き合ったりして関係を作っていることがよくわかる。保護者としても先生方に話しかけやすい雰囲気でもとても助かる。お便りやホワイトボードなど園生活がよくわかり、安心して登園させることができる。絵本の貸し出しやほっとタイムカードの活用も十分には行えないこともあるが、短い時間でもその時間を大切に、子どもとの時間がとれたら良いと思う。
- 安全面に関してはフェンスの整備など充実していると感じる。園外保育時に地域の人も見える範囲で気にかけてほしいと思う。
- 園児と職員の信頼関係は会話やふれあいの様子を見ていて、とても良好に思う。
- 同じ地区に生活していても子どものいない家庭には様子がわからないことがある。小学校のように地区にえんだより等を個人情報に配慮しつつ回覧してはどうかと思う。

6 評価結果・考察等（学校関係者評価委員総合評価）を受けての具体的改善方策等

- 「豊かな話し言葉を育む環境」をテーマに今年度も保育を進めてきた。1～5歳児までの育ちの中で、まずは一人一人を受け入れ、言葉だけでなく園児の発する表情や行動などに応答する温かい関わりを大切にしてきた。そのことを当たり前の環境とし、子ども達の心が動く教材の研究や遊びの提案をしながら、子どもと保育者が一緒に豊かな体験のできる園生活を作っていける保育を今後も続けたい。
- 子どもと過ごす楽しさや子どもの成長を感じ喜びを保護者と一緒に共有できるような体験の場としての活動や行事の持ち方も、子育て支援施設として一層工夫していきたい。
- 子ども達の体験をより豊かにするために、地域へ出かけること、地域から園へ来ていただけるように呼びかけること（行事やボランティア等）など来年度も考えたい。
- 安全面の設備面に関しては担当課の協力の下、すこしずつ改善することができた。人的な面では職員配置の工夫もしながら、地域の方にも園に親しみを持って見守っていただけるように住民会等との交流も計画していきたいと考える。
- 現在は園の保護者以外への情報発信は行事等を中心にホームページの更新で行っているが、個人情報に配慮したお便りも考えたい。
- 今後も、子ども達が安心してのびのびと自己発揮しながら成長し、その笑顔が輝くように、そして、安心して子どもを預けていただけるように職員一同心を合わせて取り組んでいきたい。